

IIAS NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

April 2008

59

 財団法人
国際高等研究所

<http://www.ias.or.jp>

index

報 告

研究活動報告(2月1日～3月31日)

第61回理事会・第55回評議員会を開催(3月12日)

2007年度第3回企画委員会を開催(2月15日～16日)

第12回「コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)」
ワークショップを開催(3月4日～8日)

研究プロジェクト「高度計測技術の発展と埋没」において
特別講演を開催(3月15日)

「第3回日本—ハンガリーセミナー」報告書を刊行(4月10日)

高等研報告書706「途上国に対する日本人長期アドバイザー論」を
刊行(3月10日)

2008年度研究員の採用と特別研究員の動静

紹 介

2008年度新規研究プロジェクト(5議題)

高等研研究関係者の出版図書紹介

報 告

高等研公開講演会「江戸時代の新しい見方」～近代の胎動・近年
の数量経済史研究の成果から～(2月23日)

参加者募集

高等研公開講演会「洛中洛外図を楽しむ」

～上杉本(狩野永徳筆 国宝)を中心に～(5月31日)

第三回合同見学会「IIAS・RITE・OMRON」開催(5月22日)

IIASカレンダー ●研究活動(4月1日～6月30日)

●イベント

お 知 ら せ ●専務理事の交代

ご 挨拶 ●専務理事就任にあたって 西村 耕一

研究活動報告(2月1日～3月31日)

研究プロジェクトのタイトル	開催日	研究代表者	参加者数
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築(合同)	2月1日(金)	北川善太郎	5
共同研究の法モデル	2月5日(火)～3月25日(火)	北川善太郎	延べ52
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築(合同)	2月7日(木)	北川善太郎	4
2007年度第3回企画委員会	2月15日(金)～16日(土)	金森順次郎	27
多元的世界観の共存とその条件～閉ざされた世界から開かれた世界へ～	2月19日(火)～20日(水)	石川 文康	9
生物進化の持続性と転移	2月19日(火)～20日(水)	津田 一郎	21
共同研究の法モデル	2月22日(金)	北川善太郎	4
細胞履歴に基づく植物の形態形成	2月23日(土)	鎌田 博	12
19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究	2月26日(火)～27日(水)	吉田 忠	7
ハンガリーとのセミナー(日本学術振興会)	2月28日(木)	足立 裕彦	4
中国民法典立法高等研フォーラム「民法の未来像」/共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築(合同)	2月29日(金)	北川善太郎	9
女性研究者と科学技術の未来	2月29日(金)～3月1日(土)	伊藤 厚子	13
学術創成研究「物質新機能開発戦略としての精密固体化学:機能複合相関新物質の探索と新機能の探求」	2月29日(金)～3月1日(土)	島川 祐一	18
IIASフェロー研究会「原子核のクラスター動力学の最前線」	3月1日(土)	堀内 昶	9
学習の生物学(フォローアップ研究)	3月1日(土)	星 元紀	11
第12回コンピュータショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)ワークショップ	3月4日(火)～8日(土)	赤井 久純	61
文化財保全技術(第1分科会)	3月6日(木)	志水 隆一	9
文化財保全技術(幹事会)	3月6日(木)	志水 隆一	7
文化財保全技術	3月6日(木)	志水 隆一	30
計算機マテリアルデザインコピーマートの構築	3月7日(金)	中西 寛	4
計算機マテリアルデザインコピーマートの構築(メタデータ検討分科会)	3月14日(金)	中西 寛	3
高度計測技術の発展と埋没	3月14日(金)～15日(土)	本河 光博	27
スナマとシステム～知のあり方～	3月15日(土)	亀本 洋	11
特定領域研究「次世代量子シミュレータ・量子デザイン手法の開発」	3月18日(火)～19日(水)	赤井 久純	91
21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題～人文社会科学からのアプローチ～(フォローアップ研究)	3月18日(火)～19日(水)	木下 富雄	8
計算機マテリアルデザインコピーマートの構築	3月21日(金)	中西 寛	8
グローバリゼーションと市民社会	3月21日(金)～22日(土)	仁科 一彦	7
19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究	3月21日(金)～22日(土)	吉田 忠	8
スキルと組織	3月22日(土)	榎木 哲夫	14
認識と運動における主体性の数理脳科学	3月27日(木)	沢田 康次	14

第61回理事会・第55回評議員会を開催(3月12日)

3月12日に第61回理事会・第55回評議員会を開催。2008年度事業計画・収支予算、理事・監事・評議員の改選と役員人事、顧問の改選につき審議し、原案どおり議決しました。

(1) 2008年度事業計画

研究プロジェクト22課題、招へいフェロー7名、フォーラム5件、一般公開事業5件実施を計画しています。



(2) 2008年度収支予算

事業活動収入合計127,760千円(対前年予算比△15,340千円)、事業活動支出合計189,200千円(同△20,700千円)、収支差額は研究事業推進基金取崩しにより補てんされます。

(3) 理事・監事・評議員の改選

3月31日に任期満了となるため、改選(任期2年)が議決されました。理事、監事及び評議員の異動は、諸団体の代表交代に伴うものです。

(4) 役員人事

立石義雄理事長、副理事長には津村準二・関西経済連合会副会長、西室泰三・日本経済団体連合会評議員会議長、矢島英敏・島津製作所会長が再任されました。

なお、野村一雄専務理事が退任し、同じくオムロン株式会社の西村耕一氏が新たに専務理事に選任されました。

(5) 顧問の改選

6名の方が再任されました。

報告

2007年度第3回企画委員会を開催(2月15日～16日)

2007年度第3回企画委員会が、企画委員、上級研究員、特別委員、フェロー等27名の出席のもとに2008年2月15日～16日に開催されました。

委員会では、金森順次郎所長から本年度の研究事業の進捗状況及び来年度の研究事業計画の概要等について報告があり審認されました。続いて、ロバート キャンベル企画委員による「河鍋暁斎と幕末明治の書画会」、日向康吉企画委員による「食料生産に関する研究の世界史」についての話題提供があり、これらについて活発な質疑応答が行われました。



報告

第12回「コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)」ワークショップを開催(3月4日～8日)

本ワークショップは、高等研及び大阪大学の共催により3月4日～8日に開催しました。

コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)の手法は、材料科学・物質科学における新素材開発に際しブレークスルーとなる可能性が極めて高いものと期待されています。このワークショップはコンピューテーショナル・マテリアルズ・デザインの可能性を展望するとともに、その基本となる最先端の計算手法を学び、実際にマテリアルズ・デザインを体験することにより、物質科学の新しいパラダイムに対応できる基礎能力をつけることを目的としています。

ワークショップでは、高等研に加え、日本原子力研究開発機構 関西光科学研究所の施設を利用し、第一原理計算に基づきナノマテリアルズやこれを用いたナノデバイスの設計を行うための量子シミュレーション手法を修得することを目的とした集中講義(講義とチュートリアル併用)を行いました。

今回は、ビギナーコースに19名、アドバンスドコースに9名、計28名が受講しました。ワークショップ終了後、笠井秀明大阪大学大学院工学研究科教授から受講生に修了証書が授与されました。



報告

研究プロジェクト「高度計測技術の発展と埋没」において特別講演を開催(3月15日)

3月14日～15日に開催された研究プロジェクト「高度計測技術の発展と埋没」(研究代表者:本河光博高等研フェロー/東北大学名誉教授)2007年度第2回研究会のプログラムの最後(3月15日13:30～14:30)において、特別講演として、質量分析分野でノーベル化学賞を受賞された田中耕一氏(島津製作所、田中耕一記念質量分析研究所長)をお招きして、演題を「異分野融合の場としての質量分析開発」とした講演をしていただきました。

この特別講演には、オムロン株式会社京阪奈イノベーションセンタはじめ、けいはんな学研都市に立地の研究機関及び関係機関から約40名の方が参加されました。講演は、受賞技術の説明にとどまらず、異分野交流・チームワーク・説明する力の重要性など、特に研究・開発を担う方々には絶好の機会となりました。

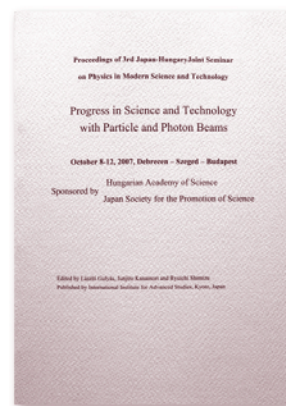


報告

平成19年度二国間交流事業「第3回日本-ハンガリーセミナー」報告書を刊行(4月10日)

日本学術振興会の平成19年度二国間交流事業セミナー(2007年10月8日～12日ハンガリーで開催/代表者 足立 裕彦フェロー・京都大学名誉教授)の報告書「Proceedings of 3rd Japan-Hungary Joint Seminar on Physics in Modern Science and Technology—Progress in Science and Technology with Particle and Photon Beams—」を刊行しました。

この報告書は金森 順次郎所長、志水 隆一上級研究員及びLászló Gulyás氏の3名が中心になって編集されたものです。ご関心をお持ちの方々にご一読をお勧めします。なお報告書のお問い合わせは事務局・学術情報部(TEL/0774-73-4000)まで。



報告

高等研報告書を刊行(3月10日)

3月10日に高等研報告書「途上国に対する日本人長期アドバイザー論」を刊行しました。この報告書は、2007年2月に刊行した高等研報告書0603『途上国における日本人長期政策アドバイザー体験記』(研究代表者 橋本日出男)に次ぐもので、途上国政府の中における政策アドバイザーの位置や果たしてきた役割など、多面的な角度から長期政策アドバイザーについてまとめられたものです。ご関心をお持ちの方々にご一読をお勧めします。

お申し込みは、コピーマート研究所(TEL/075-315-9923 FAX/075-315-9368)まで。
報告書名/706「途上国に対する日本人長期アドバイザー論」
研究代表者/橋本日出男、研究年度/2002～2006年度
サイズ/B5版・頁数/274頁・価格/1,800円(税別)



2008年度研究員の採用と特別研究員の動静

優秀な若手研究者の研究を奨励するために、2008年4月に下記2名の研究員を採用しました。任期は2009年3月31日までです。

- ・勝久 晴夫 大阪大学大学院法学研究科博士後期課程
- ・高田 恭子 立命館大学大学院法学研究科博士後期課程単位修得退学



勝久研究員



高田研究員

2004年4月から2007年3月までの3年間、高等研特別研究員であった松井章浩氏が、2008年4月1日付けで大阪工業大学知的財産学部講師に就かれました。

2008年度新規研究プロジェクト(5課題)

①近代精神と古典解釈:伝統の崩壊と再創造(3年計画)

研究代表者:手島 勲矢 (企画委員/同志社大学大学院神学研究科教授)

ヘブライ語聖書とホメロスの伝統的な著作理解は、19世紀から20世紀にかけて「科学的」批判の下に大きく変容し、それによりそれぞれテキストの統一性は否定されるようになりますが、その近代の古代テキスト批判(モーセ五書の資料説とホメロス問題)には共通したある種の思想的傾向があると指摘されています。

そこで、新時代の文明コミュニケーションとしての古典学の創造を念頭に置きつつ、近代革命期の古典解釈に生じた本質的かつ急激な変化を総合的に理解し、その含意を言語化することにより、欧米近代の知をその最も深い背景から多視点的に反省・評価することを試みます。近代精神が古典研究に及ぼした影響の特質を考察するために、ホメロス研究また旧約研究において「伝統」がどのように変化し崩壊していったか、1) テキスト、2) 言語、3) 文脈、において検証し、その近代精神の傾向性を質しながら、古典研究における「科学」と「伝統」の新たな関係構築を目指します。

②数量的アプローチによる日本経済の比較史的研究(3年計画)

研究代表者:宮本 又郎 (フェロー・特別委員/大阪大学名誉教授/関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授)

日本における歴史的なマクロ経済成長と、同時に生じたさまざまな制度的変化との因果関係を明らかにすることは、今日の日本経済の力強い再生のために不可欠の思想的基盤となります。

この10年来唱えられつづけた「構造改革」の対象こそは、高成長指向・調整重視の「日本型経済システム」であり、その歴史的根源にメスを入れると同時に、さらにシステム形成以前には「古典的な資本主義」にあったといわれる日本経済の市場的發展に対する知見を増すことは、望ましい将来のシステム構築に大いに裨益すると考えられます。このため、数量経済史的手法の明示的な使用によって、長期(近世、近代、現代)にわたる日本経済の成長と制度的展開を多面的かつ比較史的に明らかにし、世界史的に位置づけられた日本における長期経済発展の像を、より明確かつ包括的なものにするによって、持続的成長に適合的な制度と市場の関係を明らかにし、その社会的設計に示唆を与えることを目指します。

③絶滅と再生の生物学(3年計画)

研究代表者:長谷川真理子 (総合研究大学院大学先導科学研究科教授)

生物は、およそ38億年前に地球上に現れて以来、実に多くの種が進化によって生まれてきました。しかし、その陰にはまた、実に多くの生物種の絶滅がありました。その後の新たな種の進化も含め、地球の歴史が平穏で単調なものではなかったことは、最近の諸科学が十分に明らかにしてきました。

一方、人間というたった1種の生物の活動が、地球史の中では一瞬とも言えるほどの短い期間に、人間以外の大量の種を絶滅に追いやっているのも事実です。これらの最近に起こっている絶滅は、過去の地球規模で見たときの絶滅とは何が違うのか、そこからの再生はあり得るのか、再生を果たすには何をすべきなのか、絶滅のプロセスを検討し、再生があり得るのか、再生の道はどのような性質のものであるのか、を検討します。

2008年度新規研究プロジェクト(5課題)

④ 絵画と文学に表象される、時間と空間の脳による認識(3年計画)

研究代表者:近藤 寿人 (企画委員/大阪大学大学院生命機能研究科教授)

視覚を通して得た像が、脳の機能によってどのように認識されるのかが最近具体的に明らかにされ始めています。一方、記憶を含む時間認識の機構の理解は、未だ断片的な段階にあります。人間とその意識を正しく理解するための学問として、脳機能の研究を発展させるためには、このような人間の意識の表象が説明されるべきであると考えられます。

絵画や文学には、認識されうるものとしての時間や空間が如実に表象されています。しかし、脳機能の研究と美術・文学の研究とはこれまで接点に乏しかったのも事実です。脳機能研究、絵画研究、文学研究の専門家たちが、「時間と空間の認識」に関する問題を提起し、脳機能の研究に将来的な課題を提示しつつ、美術や文学の演出的な効果のなかに無意識で用いられている「脳機能の特性」を発見するための手がかりを探ります。

⑤ ナノ物質量子相の科学(3年計画)

研究代表者:潮田 資勝 (前北陸先端科学技術大学院大学長/独立行政法人物質・材料研究機構フェロー)

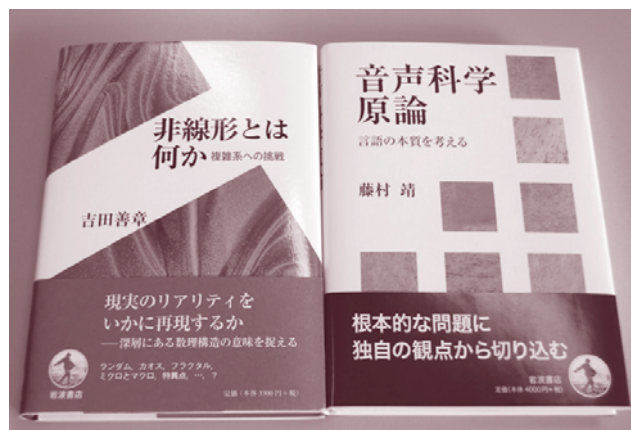
ナノ物質で総称される系の原子レベルでの多様な動的、静的構造とその量子状態は、新しい物性を生む母体として注目されています。しかし、ナノダイナミクスや量子位相制御に着目すると、まだその一部が解明されているに過ぎません。

現在多くの孤立したプロジェクトが組織され、様々な角度から研究が進められていますが、一つの研究方向に集中することの必要性の反面、多様な可能性の一端だけを捉えて、他の可能性に気がつかず大魚を逸する危険性を常に秘めています。このことから、新しい可能性を発掘するための物質科学に立脚し、学術コミュニティ間、各種プロジェクト間の壁を取り払った多角的な総合調査を行い、さらに学理を深く究め、応用を視野に入れてイノベーションへ繋げていくことを目指します。

高等研研究関係者の出版図書を紹介

高等研の研究関係者2氏(藤村 靖 高等研フェロー、吉田 善章 東京大学教授)の研究著書が刊行されました。

- ・ 藤村 靖 書名/ 音声科学原論～言語の本質を考える～ 岩波書店 税抜き価格/4,000円
 - ・ 吉田 善章 書名/ 非線形とは何か～複雑系への挑戦～ 岩波書店 税抜き価格/3,300円
- ご関心をお持ちの方々にご一読をお勧めします。



高等研公開講演会 「江戸時代の新しい見方」 ～近代の胎動・近年の数量経済史研究の成果から～（2月23日）

2月23日（土）に京都銀行の協賛による2007年度第3回目の公開講演会を開催しました。

宮本又郎 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授をお招きし、演題「江戸時代の新しい見方～近代の胎動・近年の数量経済史研究の成果から～」の講演会には、62名の方々が聴講されるとともに、熱心な質疑応答が行われました。



参加者募集

高等研公開講演会 「洛中洛外図を楽しむ」 ～上杉本（狩野永徳筆 国宝）を中心に～（5月31日）



- ・演 題：「洛中洛外図を楽しむ」～上杉本（狩野永徳筆 国宝）を中心に～
- ・講 師：山本 英男 京都国立博物館美術室長
- ・開催日：2008年5月31日（土）14:00～16:00
- ・場 所：高等研レクチャーホール
- ・対 象：高校生以上
- ・聴 講：無料・事前申込不要

●講演要旨：

ご存じのように、洛中洛外図屏風とは「洛中」と「洛外」、つまり京都の市中と郊外を合わせ描いた屏風絵のことです。その起源は古く、16世紀初め頃に禁裏の絵所預の地位にあった土佐光信が越前の守護・朝倉貞景の求めによって制作した「京中の新図」（屏風）が、史料の上では最も遡るとされています。

それ以降、数多くの洛中洛外図屏風が描かれました。なかでも桃山時代最高の絵師、狩野永徳が描いた国宝「洛中洛外図屏風」（通称・上杉本 米沢市上杉博物館）は、織田信長が上杉謙信に贈った作品として夙に有名です。金雲の合間に姿を覗かせる京の町並みと、その中に描き込まれた二千数百名もの人々。耳を澄ませると、いろんな物音や話し声すら聞こえてきそうなほど、生き活きと捉えられています。思うに、この絵ほど都の賑わいを観る者に強く感じさせる絵画はないでしょう。

本講演では、洛中洛外の歴史に触れたのち、上杉本の細部を画像でご覧いただきながら、当時の人々の生活の様子をご紹介します。と思います。



小川通りの歳末風景（上杉本より）

参加者募集

第三回合同見学会「IIAS・RITE・OMRON」開催（5月22日）

「見て、知って、なるほど！」～訪れるたびに新しい発見があります～

ご好評につき、高等研と（財）地球環境産業技術研究機構（RITE）及びオムロン（株）京阪奈イノベーションセンター（OMRON）の3機関共同の第三回合同見学会を開催いたします。

お誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。そして、皆さまの声をお聞かせください。

- ・開 催 日：2008年5月22日（木）※事前申込不要
- ・開催時間：13～17時 ご希望の研究機関から順次ご見学ください。

●研究活動 (4月1日～6月30日)

開催日	研究プロジェクトのタイトル	研究代表者
4月4日(金)、5日(土)、10日(木)、12日(土)	共同研究の法モデル	北川善太郎
5月20日(火)～22日(木)	音声 — 音声の音響的特長と感情表現 —	藤村 靖
5月23日(金)～24日(土)	近代精神と古典解釈:伝統の崩壊と再創造	手島 勲矢
5月30日(金)～31日(土)	多元的世界観の共存とその条件(フォローアップ研究)	石川 文康
6月14日(土)～15日(日)	すきまの組織化	鳥海 光弘

●イベント

開催予定日	イベント名称	講師
5月17日(土)	高等研「雅松庵」茶会開催	本間 宗壽
5月22日(木)	第3回合同見学会 (IIAS・OMRON・RITE)	—
5月31日(土)	公開講演会「洛中洛外図を楽しむ」～上杉本(狩野永徳 国宝)を中心に～	山本 英男

お知らせ

●専務理事の交代

第61回理事会・第55回評議員会の理事選任により、5年間に亘り高等研の発展に貢献いただきました野村一雄専務理事が3月31日付で退任されました。後任として、4月1日付で西村耕一専務理事が就任いたしました。

ご挨拶

●専務理事就任にあたって 西村 耕一

第61回理事会においてご推挙いただき、4月1日より着任いたしました。身に余る光栄でございますが、立石理事長はじめ関係の皆様のご指導、ご鞭撻をいただきながら職責を全うしたいと考えております。何卒宜しくお願ひ申し上げます。

ご存知のとおり高等研も1984年の財団設立以来24年、けいはんな学研都市に研究所施設を建設してから丁度15年の年月を数えることとなりました。静かに穏やかでありながら何か圧倒するような凜とした佇まいは、高等研の創設と運営に携わってこられた学界、官界、産業界の皆様方の思いが一つに凝縮されているものと感ぜずにはられません。まさに、「人類の未来と幸福のために何をなすべきか」を研究するという稀有壮大な基本理念を追求する場としてふさわしいと、着任早々感じておるところでございます。

幸い研究活動においては金森所長の強力なリーダーシップのもと現在22のテーマが進行中であり、日本はもとより世界の頭脳が結集されています。成果は充分期待いただけるものと信じております。

研究財団を運営する立場としましても、それらの成果をけいはんな学研都市から発信していく努力を重ねたいと思います。また、まだまだ続く超低金利の時代において、財政面での克服課題も多々ございますが、理事・評議員の皆様のお知恵も拝借しながら、理事長を補佐し、高等研の発展に貢献する所存でございます。

皆様のご支援をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

(財)国際高等研究所専務理事 西村 耕一 (にしむら こういち)



1971年	立命館大学経営学部卒業 立石電機(株)入社
2003年	オムロンリレーアンドデバイス(株)社長
2008年4月	(財)国際高等研究所専務理事

編集・発行者

財団法人 国際高等研究所

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

TEL : 0774-73-4000 FAX : 0774-73-4005

http://www.iias.or.jp